ONKYO®

6chアンプ内蔵サブウーファー

DHT-SW1

取扱説明書

お買い上げいただきまして､ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■ コンパクトなサブウーファーボディに、総合出力100Wの6chアンプを搭載
■ お手持ちのスピーカーを自由に組み合わせて、本格的な5.1ch再生が可能
■ 先進のバーチャルサラウンド技術、シアターディメンショナル（Theater-Dimensional）を搭載
■ フロント2chもしくは3chスピーカーだけでも臨場感あふれるサラウンド再生が可能
■ ドルビー[*1]デジタル/DTS[*2]/AAC[*3]/ドルビープロロジックIIデコーダー搭載
■ オンキヨー独自のリスニングモード（Orchestra/Unplugged/Studio-Mix/TV Logic/All Ch St）搭載
■ デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC[※1]（Vector Linear Shaping Circuitry）回路をフロント2chに搭載（特許出願中）
■ OMF[※2]ダイヤフラム採用J' DRIVE[※3]方式サブウーファー（特許出願中）
■ サンプリング周波数96kHz入力に対応する高性能D/Aコンバーターを搭載
■ 光デジタル入力端子3系統、アナログ入力端子1系統の豊富な外部入力端子を装備

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 本機はDTS社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Surround"は、DTS社の商標です。

*3 AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5, 579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5, 592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240
5,197,087 5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

※1 **パルス性ノイズの完全除去に成功したVLSC**
VLSC（Vector Linear Shaping Circuitry）は「比較器」と「ベクトル発生器」、「積分器」で構成され、まったく新しいアナログ信号を生成する特許技術回路です。ヒアリングによる検証でも従来のローパスフィルターを使用したものと比較して、音の実在感や空間描写力が飛躍的に改善されていることが確認できています。（米国特許番号6,697,002、日本およびEU各国は出願中）

※2 **独自開発OMFダイヤフラム採用のスピーカーユニット**
スピーカーユニットにはOMF（Onkyo Micro Fiber）ダイヤフラムを採用。独自の素材と成形方法によって、振動板に要求される条件（①軽量②高剛性③適度な内部ロス）を最適にバランスさせ、雑音の低減、トランジェント（過渡特性）を向上させています。また、サブウーファー部には、音質の良い木製キャビネットを採用しています。

※3 **コンパクトながら自然で迫力ある重低音、J'DRIVE方式（特許出願中）**
サブウーファー部はスピーカーユニット前面の容積を限界まで小さくした特殊な構造を採用し、高い圧力で圧縮膨張した空気を開口部から一気に放出する、いわばジェットエンジンのような空気の流れによって、自然で迫力ある重低音を再現しています。

- OMF®の名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。
- VLSCの名称、ロゴはオンキヨー（株）の商標です。
- Theater-Dimensionalの名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表わす記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● 本機を使用できるのは日本国内のみです。
● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

● 本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。 火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 中に物を入れない

- 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
  そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上にものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

- 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因となることがあります。

■ スピーカーコードは安全な場所へ

- スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れたときは、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。

- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

⚠注意

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。

- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

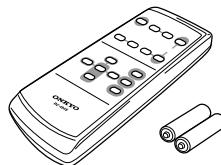
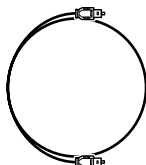
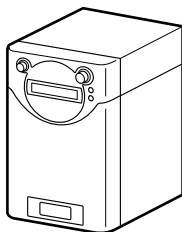
箱を開けたら、まず

付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

- 本体（1）

- オーディオ用
  光デジタルケーブル 1.5m（1）

- リモコン（RC-494S）(1)
- 乾電池（単3形）(2)

- 取扱説明書（本書1）
- 保証書（1）
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）

ご注意

デジタルサラウンドシステム（DHT-SW1）には、サテライトスピーカーが付属されておりません。ホームシアターを楽しむには、別途スピーカーシステムと組み合わせてご使用いただく必要があります。

取り扱い上のご注意

■ お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■ テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

■取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

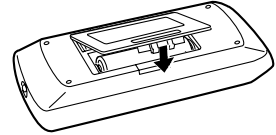
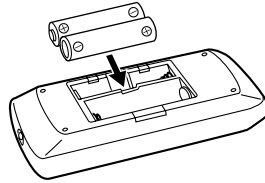
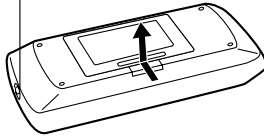
■メモリー保持について

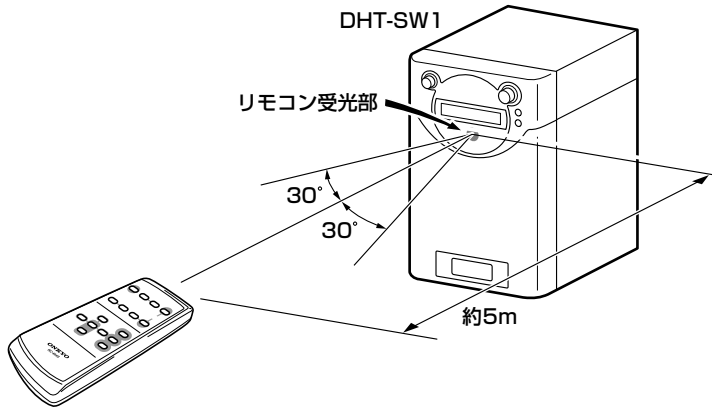
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が設定した内容などを停電時などに保護するためのものです。本機の電源コードを抜いた状態、または背面のPOWERスイッチを切った状態でメモリーを保持できるのは約2週間です。

リモコンの乾電池の入れかたと交換のしかた

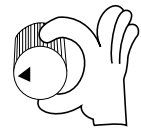
① ツメを矢印方向に持ち上げてカバーをはずす。

② 中の極性表示にしたがって、付属の電池2個をプラス⊕、マイナス⊖を間違えないように入れる

③ カバーを閉める

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。
- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

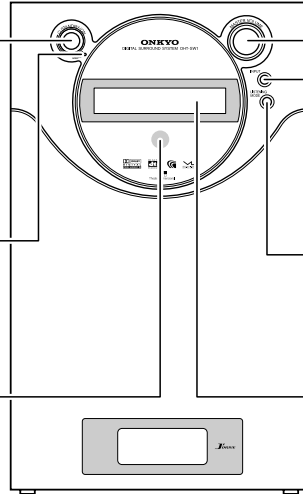
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

各部の名前と働き

前面パネル

STANDBY/ONボタン
後面パネルのPOWERスイッチが「ON」のとき、スタンバイ/オンを切り換えます。

STANDBYインジケーター
スタンバイ状態のときや、リモコンの信号を受信すると点灯します。

リモコン受光部

MASTER VOLUMEツマミ
音量を調整します。

INPUTボタン
入力を切り換えます。

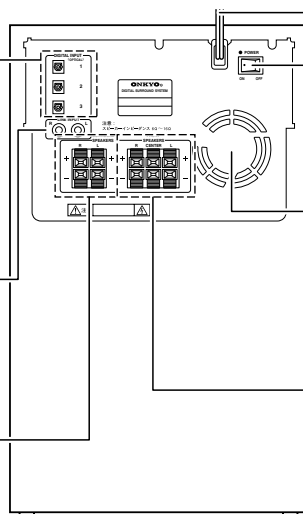
LISTENING MODEボタン
リスニングモードを切り換えます。

表示部
（次ページ参照）

後面パネル

DIGITAL INPUT（OPTICAL）1/2/3端子
光デジタルケーブル※で、DVDプレーヤーやBSデジタルチューナーなどの光デジタル出力端子と接続します。
※本機に付属しています。

LINE INPUT端子
オーディオ用ピンコードで、ビデオデッキなどのライン出力端子（アナログ）と接続します。

SURROUND SPEAKERS端子
サラウンドスピーカー（左／右）を接続する端子です。

電源コード

POWERスイッチ
主電源のON/OFFを切り換えます。

放熱用ファン
本体内部の温度が上昇した時に、ファンが回ります。

FRONT SPEAKERS端子
フロントスピーカー（左/センター/右）を接続する端子です。

表示部

MUTINGインジケーター
ミューティングが働いているときに、点滅します。

リスニングモード／デジタル入力フォーマットインジケーター
入力されている信号の種類およびリスニングモードを表示します。

SLEEPインジケーター
スリープタイマーが働いているときに、点灯します。

多目的表示部
再生モード、設定内容などを表示します。

リモコン（RC-494S）

STANDBY/ONボタン
本体後面パネルのPOWERスイッチがONのとき、電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

LISTENING MODE ◄/►ボタン
リスニングモードを選びます。

CHANNELボタン
レベルを設定するスピーカーを選びます。

TEST TONEボタン
各スピーカーから、テストトーンが出力されます。

LEVEL/DISTANCE ▲/▼ボタン
各種設定項目の選択に使用します。

INPUT SELECTOR ◄/►ボタン
入力を切り換えます。

MASTER VOLUME ▲/▼ボタン
音量を調整します。

MUTINGボタン
音量を一時的に小さくします。

LATE NIGHTボタン
小音量で楽しみたいときに、ダイナミックレンジを切り換えます。

SLEEPボタン
スリープタイマーを設定します。

DIMMERボタン
表示部の明るさを切り換えます。

DISTANCEボタン
スピーカーとの距離の設定や再生するスピーカーの数、シアターディメンショナルのリスニングアングルを設定するときに使用します。

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。再生する信号や、接続するスピーカーの数によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

本機と接続するスピーカーの使いかた
2つお持ちの場合：左右フロントスピーカーとして使用します。(2.1チャンネル再生)
3つお持ちの場合：左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3.1チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合：左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5.1チャンネルサラウンド)

右の図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。しかし、センタースピーカーやサラウンドスピーカーがないときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大に引き出します。

左右フロントスピーカー（本機には付属していません）
総合的に音声を出力します。ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。視聴位置の前方に配置します。音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対象が理想です。

センタースピーカー（本機には付属していません）
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

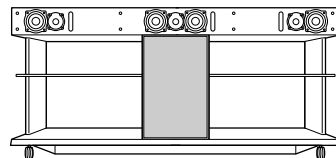
左右サラウンドスピーカー（本機には付属していません）
臨場感を高める役割を果たします。効果音などで音の立体的な動きを表現します。視聴位置の横または後斜めに配置します。左右対象で視聴者の耳より１m高い位置が理想です。

サブウーファー（本機に内蔵しています）
低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。

！ヒント

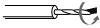
別売りの3chスピーカー内蔵TVラック
CB-SP1200XTとの組み合わせについて
3つのスピーカーをTVラックに内蔵していますので、左右フロントスピーカー、センタースピーカーにご使用いただけます。
※ 右の図は、スピーカー部のサランネットをはずした状態です。詳しくは、CB-SP1200XTの取扱説明書をご覧ください。

別売りの3chスピーカー内蔵TVラック
CB-SP1200XT
本機を収納する専用BOXも装備していますので、すっきりと美しく、本格的なホームシアターをお楽しみいただけます。

- 電源を入れたらまず、接続したスピーカーのチャンネル数を設定してください。(☞17ページ)
- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が届く時間を一定にするため視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量の設定を行ってください。(☞26、27ページ)

接続の前に

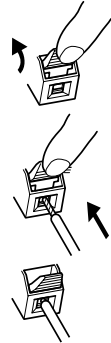
付属のスピーカーコードの準備をします。

① スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。

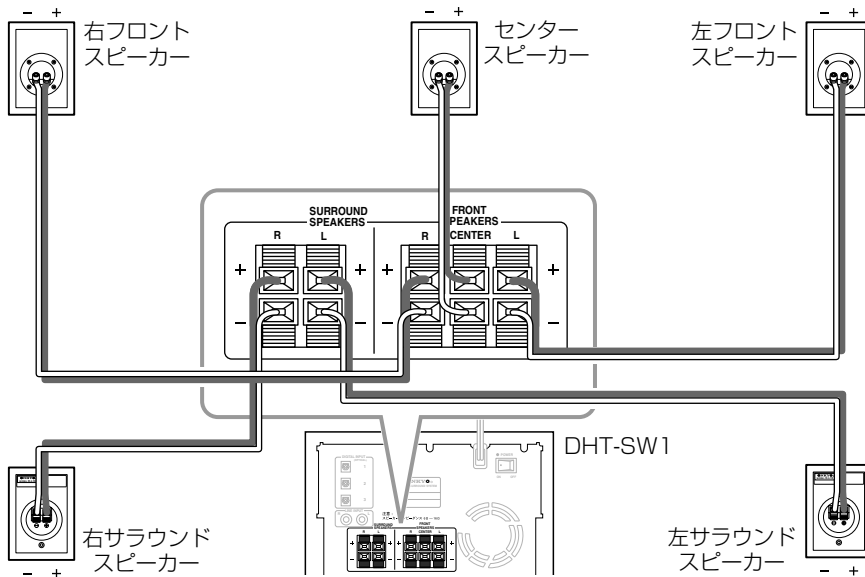
② しん線をよじります。

スピーカー端子への接続方法

① レバーを押します。

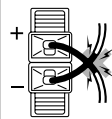
② しん線を穴の中に入れます。

③ レバーをはなします。

スピーカーの接続

お手持ちのスピーカーを接続します。「ホームシアターを楽しもう」（12ページ）をご覧いただき、使用されるスピーカーの数によって、接続する端子を選んでください。
組み合わせるスピーカーは6Ω以上のものをご使用ください。スピーカーのプラス（+）と本機のプラス（+)、スピーカーのマイナス（−）と本機のマイナス（−）を接続します。

ご注意

プラス（+）とマイナス（−）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

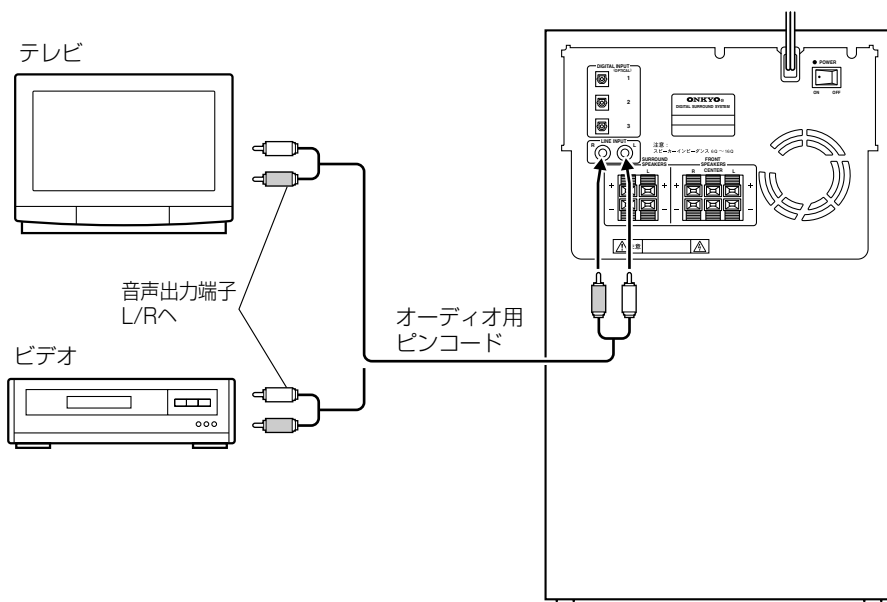
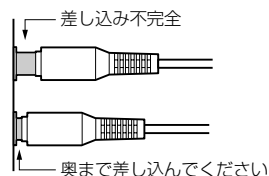
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはL/Rを絶対に接触させないでください。

オーディオ機器やゲーム機を接続する

本機には3種類のデジタル音声入力端子とアナログのライン入力端子があり、最大で4種類の機器を接続することができます。

- DVDプレーヤーなどでドルビーデジタル、DTSサラウンド信号を再生するためには、DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット）（OPTICAL（オプティカル））端子への接続が必要です。
- パソコンでデジタルサラウンドを楽しむには、デジタル出力（オプティカル）に対応したパソコンや音源ボードが必要です。お手持ちの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

アナログ音声機器の接続をする

テレビやビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のLINE（ライン） INPUT（インプット）端子を市販のオーディオ用ピンコードで接続します。接続した機器の音声がアナログでサラウンド再生されます。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。
  接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

デジタル音声機器の接続をする

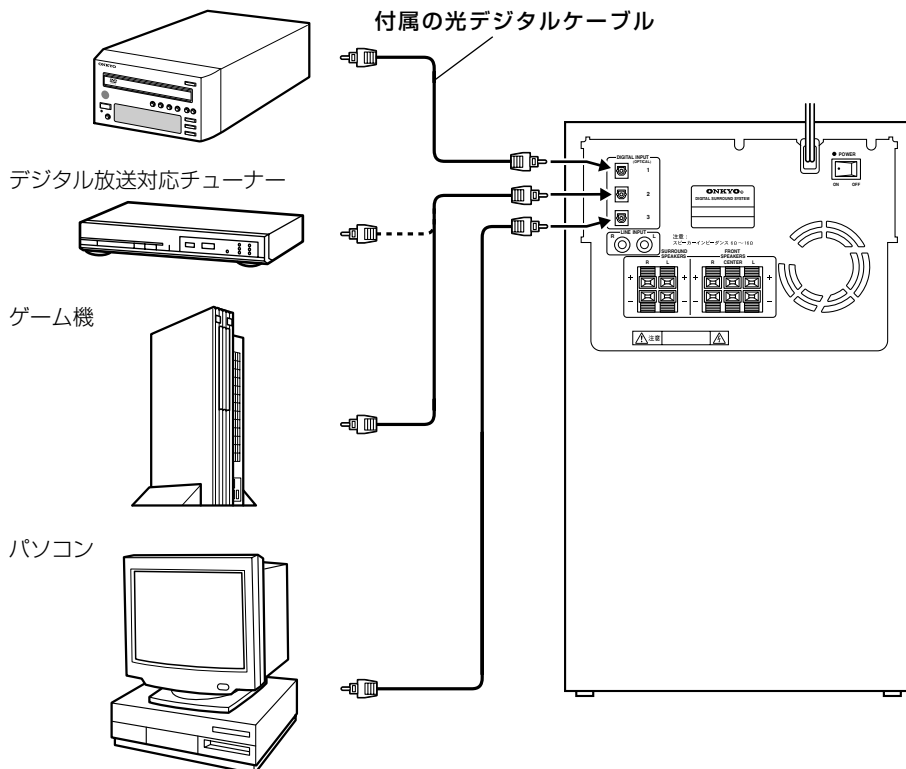
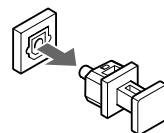
DVDプレーヤーやDVDレコーダー、地上、BS、110度CSなどデジタル放送対応チューナー、ゲーム機、パソコンなどのデジタル音声出力端子（オプティカル）と本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子を付属のオーディオ用光デジタルケーブルで接続します。接続した機器の音声がデジタルでサラウンド再生されます。
本機では音声接続のみです。映像接続は映像機器から直接テレビに接続してください。
本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子は3つありますので、3種類の機器が接続できます。
DIGITAL INPUT（OPTICAL）端子1、2、3による性能の違いはありません。 どこに接続しても同じです。

DVDプレーヤーやDVDレコーダー

付属の光デジタルケーブル

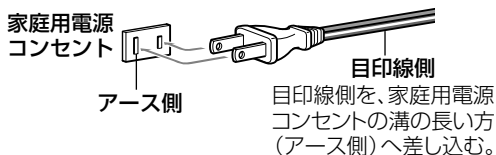
デジタル放送対応チューナー

ゲーム機

パソコン

- オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
- DIGITAL INPUT端子には、保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップは必ず元通りに取り付けておいてください。

電源を入れる

電源コードを接続する

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

目印線側を、家庭用電源コンセントの溝の長い方（アース側）へ差し込む。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの片側に目印線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

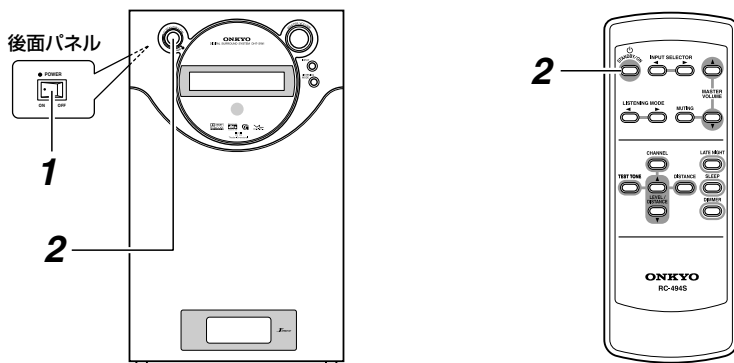
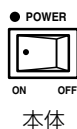
電源を入れる

リモコンのボタンは　　で表示しています。

1

● POWER

ON OFF

本体

本体後面パネルのPOWER（パワー）スイッチを「ON（オン）」にする

スタンバイインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

- お買い上げ時には、本機のPOWERスイッチは「ON」の状態になっていますので、電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイ状態となります。

2

本体

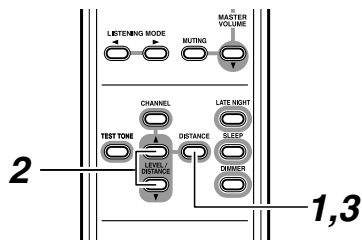
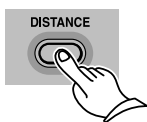
リモコン

本体前面パネルまたはリモコンのSTANDBY（スタンバイ）/ON（オン）ボタンを押す

スタンバイインジケーターが消え、表示部が点灯します。

スピーカーのチャンネル数を設定する

本機に接続したスピーカーの構成にあわせて、再生するスピーカーのチャンネル数を設定します。

1

リモコンのDISTANCEボタンを押す

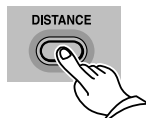
表示部に、再生するスピーカーのチャンネル数が表示されます。

※リスニングモードで「Theater-Dimensional」を選択しているときは、リモコンのDISTANCEボタンを2度押してください。

2

リモコンのLEVEL/DISTANCE▲/▼ボタンを押して、スピーカーのチャンネル数を設定する

お買い上げ時には3chが選択されています。

3

リモコンのDISTANCEボタンを（くり返し）押し、通常の表示に戻す

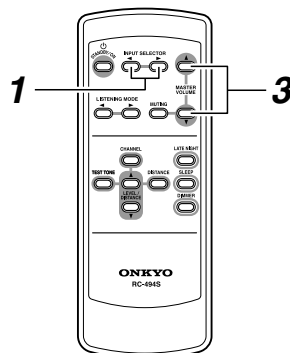
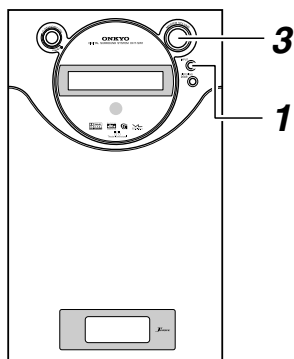
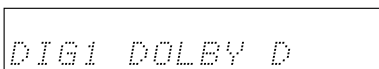
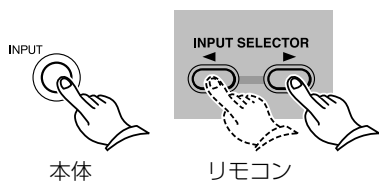
設定したスピーカー構成が記憶されます。

機器を選んで演奏する

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本体　　　　リモコン

DIG1 DOLBY D

本体のINPUTボタンまたはリモコンのINPUT SELECTOR◀/▶ボタンを（くり返し）押して、入力を選ぶ

DIG 1：DIGITAL INPUT 1端子に接続された機器

DIG 2：DIGITAL INPUT 2端子に接続された機器

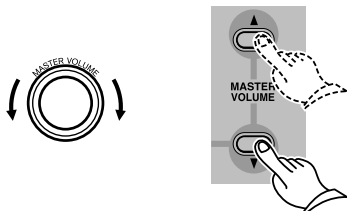
DIG 3：DIGITAL INPUT 3端子に接続された機器

LINE　：LINE INPUT端子に接続された機器

約3秒後、選んだ入力とリスニングモードの表示になります。

2

選んだ機器の演奏を始める

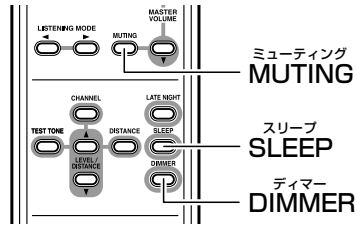
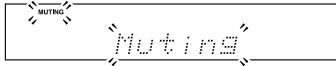
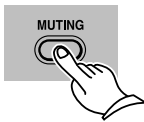
3

本体のMASTER VOLUMEツマミまたはリモコンのMASTER VOLUME▲/▼ボタンで音量を調整する

ボリュームはMin･1･2……78･79･Maxまでの範囲で調整できます。

※各種設定により、ボリュームのMax値は変わります。

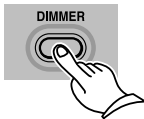
！ヒント　**音が出ないとき**

- **接続を確認する**：　選んだ入力とは異なる端子に接続されている場合があります。上記の手順で入力を切り換え、順番に演奏して音が出るかを確認してください。
- **音量を確認する**：　部屋の大きさなどによりますが、ボリュームの数値は通常30～50でお楽しみいただけます。音量が小さすぎないか、本体のディスプレイでボリュームの数値を確認してください。

一時的に音量を小さくする…MUTING(ミューティング)機能

リモコンのMUTING(ミューティング)ボタンを押す

表示部に「Muting」が表示され、音量がごく小さくなります。

解除するには…
もう一度MUTINGボタンを押してください。
リモコンのMASTER(マスター) VOLUME(ボリューム)▲/▼ボタンを押した場合や本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

表示部の明るさを変える…DIMMER(ディマー)機能

リモコンのDIMMER(ディマー)ボタンを押す

押すたびに表示部の明るさが3段階に切り換わります。

→ ふつう → やや暗い → 暗い ─┐(ふつうに戻る)

スリープタイマーを使う…SLEEP(スリープ)機能

リモコンのSLEEP(スリープ)ボタンを押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になる設定になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

残り時間を確かめるには
スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すとスタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。
ただし、残り時間が10分以下の表示のときに、再びSLEEPボタンを押すとスリープタイマーは解除されます。

スリープタイマーを解除するには
SLEEPインジケーターが消えるまでくり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れてください。

リスニングモードについて

本機のサラウンド再生によって、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。
最適なサラウンド再生をお楽しみいただくためには、スピーカーの設定を行う必要があります。(☞26ページ)本機には以下のリスニングモードがあります。

STEREO（ステレオ）

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Theater-Dimensional（シアター ディメンショナル）

2つまたは3つのスピーカーで、あたかも5.1チャンネル再生しているかのようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。

DOLBY DIGITAL（ドルビー デジタル） / **DTS** / **MPEG-2 AAC**（エムペグ）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITALは、DOLBY DIGITALマーク、DTSはdts DIGITAL SURROUNDマークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。MPEG-2 AACは、地上、BS、110度CSなどのデジタル放送で採用されている音声フォーマットです。この方式のソースの再生時に楽しむことができます。

DOLBY PRO LOGIC II（ドルビー プロ ロジック）

映画に最適なMovie（ムービー）モードと音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードの2つのモードが選択できます。
Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。DOLBY PRO LOGIC IIは、DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、MusicモードはCDなどのステレオ音楽やライブを記録したDVDにも適しています。

オンキヨー独自のリスニングドモード(DSP)

ドルビーデジタル、DTS、AAC以外の信号を再生するときは、オンキヨー独自のリスニングモードを楽しむことができます。

ORCHESTRA（オーケストラ）

クラッシックやオペラに適したモード。
センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

UNPLUGGED（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモード。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

STUDIO-MIX（スタジオ ミックス）

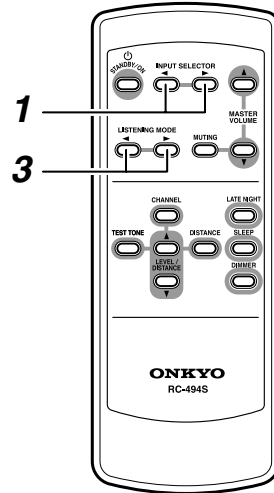
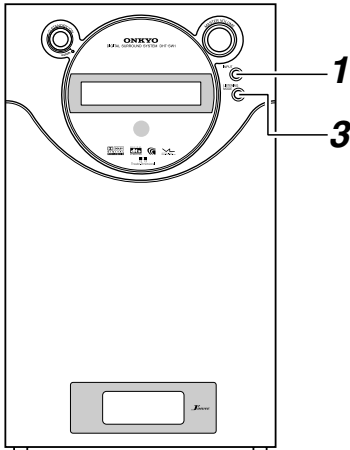
ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモード。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV LOGIC（ティーヴィーロジック）

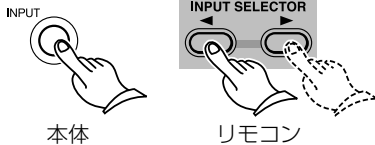
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモード。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

ALL CH ST（オール チャンネル ステレオ）

BGMとして音楽をかける時に便利なモード。サラウンドスピーカーもフロントスピーカーと同じ音が出て迫力ある音場をお楽しみいただけます。

リスニングモードを使う

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

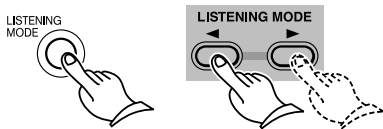
本体　　　　リモコン

本体のINPUT（インプット）ボタンまたはリモコンのINPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）◀/▶ボタンを（くり返し）押し、演奏したい機器を選ぶ

表示部に選んだ入力とリスニングモードが表示されます。

`DIG1  DOLBY  D`

2

選んだ機器を演奏する

3

本体またはリモコンのLISTENING（リスニング） MODE（モード）◀/▶ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

ボタンを押すたびに、モードが切り換わります。
選べるモードは入力信号の種類によって異なります。次ページの表をご覧ください。

リスニングモードを楽しむ

入力される信号に対応するリスニングモード

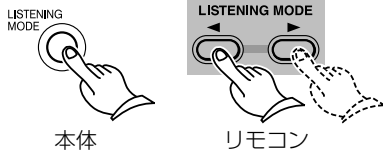
スピーカーのチャンネル数*1	再生するソースフォーマット*2	ANALOG/PCM*3	DOLBY D			DTS	AAC		
			音声多重	ステレオ	それ以外		音声多重	ステレオ	それ以外
	ソースとなるソフト／リスニングモード	カセット CD ビデオ ラジオ	DVDビデオ			DVDビデオ LD、CD	地上/BS/110度CS デジタル放送		
本機に、左右フロントスピーカーを組み合わせた構成では、以下のリスニングモードがお楽しみいただけます。									
2/3/5ch	STEREO	●		●	●	●		●	●
	Theater-Dimensional	●		●	●	●			
	MAIN（主音声）		●				●		
	SUB（副音声）		●				●		
	MAIN+SUB		●				●		
本機に、左右フロントスピーカー、センタースピーカーを組み合わせた構成では、さらに以下のリスニングモードがお楽しみいただけます。									
3/5ch	DOLBY D				●				
	DTS					●			
	AAC								●
	PL II MOVIE	●		●				●	
	PL II MUSIC	●		●				●	
本機に、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを組み合わせた構成では、さらに以下のリスニングモードがお楽しみいただけます。									
5ch	ORCHESTRA	●							
	UNPLUGGED	●							
	STUDIO-MIX	●							
	TV LOGIC	●							
	ALL CH ST	●							

*1 設定したスピーカーのチャンネル数を確認してください。（☞17ページ）
*2 フォーマットとは、再生されるソースがいくつのスピーカーから出力されるソース（チャンネル数）かを表わすものです。詳しくは、次ページをご覧ください。
*3 96kHzのサンプリングレートで記録されたPCMソースはSTEREOのみの再生となります。
- 再生するソースがAM放送やTVなどでモノラル音源のときに、サラウンドをPL II MOVIEまたはPL II MUSICにすると、センタースピーカーに再生音が集中することがあります。モノラル音源でサラウンド効果を得るには、他のサラウンドモードでお楽しみください。

DTS についてのご注意

- DTS対応のCDやLDをLINE INPUT端子のみに接続してアナログ再生すると、DTS信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、本機やスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTS対応のCDやLDを再生するときは再生機器の出力端子を本機のDIGITAL INPUT 端子に接続し、DIGITAL（デジタル）で再生してください。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデータに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデータとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生している時にプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

表示を確認する

本体　　　　リモコン

本体またはリモコンのLISTENING（リスニング） MODE（モード）◀/▶ボタンを2秒以上押し続ける

ボタンを押しつづけると表示部が次のように切り換わります。しばらくするともとの表示に戻ります。

音声信号がPCMの時：サンプリング周波数

（Sampling（サンプリング） Frequency（フリーケンシー）の意味）

音声信号がDOLBY D、DTS、AACの時：リスニングモードとフォーマット

＊フォーマット表示の意味は次のようになっています。

A：入力信号に含まれているフロントチャンネルの数を表します。
- **3：** 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- **2：** 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- **1：** モノラル（1チャンネル）

B:　入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数を表します。
- **2：** 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- **1：** モノラル（1チャンネル）
- **0：** なし

C:　入力信号に含まれているLFE（低域効果音：Low Frequency Effect）のあり/なしを表します。
- **1：** LFEあり（サブウーファーの効果が大きい）
- **表示なし：** LFEなし（サブウーファーの効果が小さい）

例えば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表わしています。

入力ソースの信号がAACで音声多重放送の場合：リスニングモードとフォーマット

AAC　　　　1+1

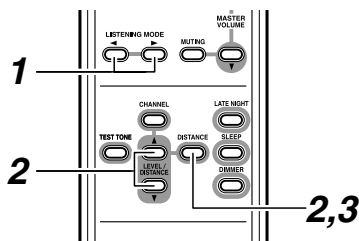
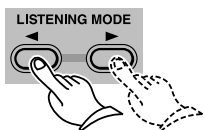
この場合、AACで音声多重放送であることを表わしています。

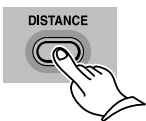
リスニングアングルを調整する

Theater-Dimensional(シアター ディメンショナル)は2つまたは3つのスピーカーでマルチチャンネル再生をお楽しみいただけます。
このモードは、左右それぞれの耳に届く音の特性を制御することによって実現していますので、もっともその効果を体験できる視聴位置（スイートスポット）が存在します。
最適なシアターディメンショナル効果を得るために、リスニングアングルの調整を行ってください。
リスニングアングルとは、視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度です。

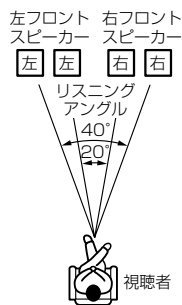
！ヒント

反射音が大きい部屋ですと、まれに期待した効果が得られない場合もありますので、できるだけ反射音の少ない環境にすることをおすすめします。

1

リモコンのLISTENING MODE(リスニング モード)◀/▶ボタンを押して、リスニングモードを「Theater-Dimensional(シアター ディメンショナル)」にする

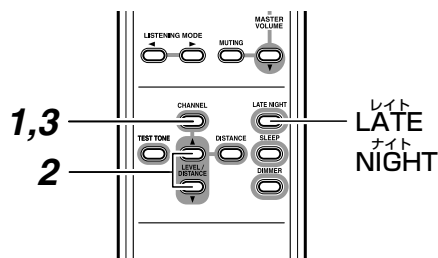
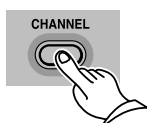
2

リモコンのDISTANCE(ディスタンス)ボタンを押し、LEVEL(レベル)/DISTANCE(ディスタンス)▲/▼ボタンでリスニングアングルを調整する

左と右のスピーカーが離れているほど、視聴者との角度は広くなります。

3

リモコンのDISTANCEボタンを（くり返し）押し、通常の表示に戻す

設定したリスニングアングルが記憶されます。

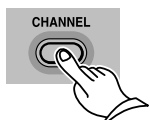
一時的に各スピーカーレベルを調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。
この設定は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

再生中にリモコンのCHANNEL（チャンネル）ボタンを押して、音量レベルを調整するスピーカーを選ぶ

2

LEVEL（レベル）/DISTANCE（ディスタンス）▲/▼ボタンを押して、各スピーカーの音量レベルを調整する

▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。−12〜+12の範囲で設定できます。（サブウーファーは、−30〜+12の範囲で設定できます。）

3

CHANNELボタンを押す

サブウーファーを選んでいるときに、CHANNELボタンを押すと、通常の表示に戻ります。調整した値を記憶させるには、TEST（テスト） TONE（トーン）ボタンを押してください。

レイトナイト機能を使う（DOLBY DIGITALソフト再生時のみ）

ドルビーデジタル録音されたソフトを再生するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

LATE（レイト） NIGHT（ナイト）ボタンを押す

押すたびに2段階のレイトナイトモード（HIGH/LOW）とOFFを切り換えることができます。HIGHにするとLOWよりさらに効果があります。

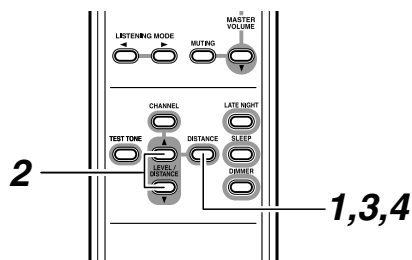
ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっていますので、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

聞く位置からスピーカーまでの距離を設定する

センタースピーカーやサラウンドスピーカーを使用する場合は、聞く位置から設置したそれぞれのスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから聞く位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。スタンバイ状態にしても記憶しています。

- 17ページで設定したスピーカーのチャンネル数が2chの場合は、設定の必要はありません。

1

リモコンのDISTANCE（ディスタンス）ボタンを（くり返し）押す

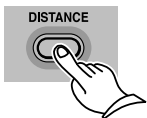
表示部にフロントスピーカーまでの距離が表示されます。

Front =3.6m/12ft

2

LEVEL（レベル）/DISTANCE（ディスタンス）▲/▼ボタンを押し、実際の距離に近い数値に設定する

▲を押すと数値が上がり、▼を押すと下がります。0.3m単位で9.0mまで設定できます。

3

DISTANCEボタンを押して、スピーカーを切り換え、聞く位置からそれぞれのスピーカーまでの距離を設定する

ボタンを押すたびに、スピーカーの表示が次のように切り換ります。設定方法は、手順***2***と同じです。

Front（フロントスピーカー）
↓
Center（センタースピーカー）
↓ ＊
Surr（左右サラウンドスピーカー）

＊は、17ページで設定したスピーカーのチャンネル数が5chのときに表示されます。

4

DISTANCEボタンを押し、通常の表示に戻す

設定したスピーカーの距離が記憶され、通常の表示に戻ります。

ご注意

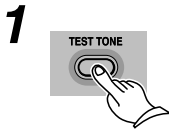
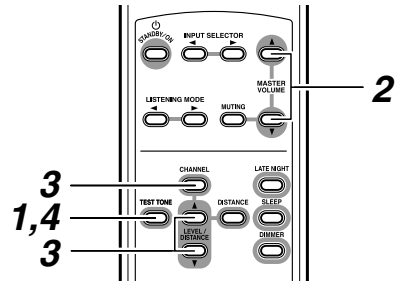
- センタースピーカーと左右サラウンドスピーカーは、左右フロントスピーカーよりも短い距離に設定してください。
- センタースピーカーは左右フロントスピーカーより1.5mまで近くに設定できます。
- 左右サラウンドスピーカーは、左右フロントスピーカーより4.5mまで近くに設定できます。

各スピーカーの音量レベルを設定する

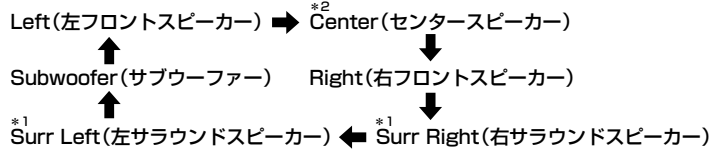
各スピーカーからの音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。

ご注意

テスト音は小さめなので、手順**2**でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、手順**3**が終了した後にMASTER VOLUME▲/▼ボタンで元の音量に戻しておいてください。

1

リモコンのTEST TONE（テスト トーン）ボタンを押す

下記の順で各スピーカーから「ザー」というテスト音が出ます。

Left（左フロントスピーカー） ➡ Center*2（センタースピーカー）
⬇
Right（右フロントスピーカー）
⬇
Surr Right*1（右サラウンドスピーカー） ⬅ Surr Left*1（左サラウンドスピーカー）
⬆
Subwoofer（サブウーファー）
⬆
Left（左フロントスピーカー）

＊1 は、17ページで設定したスピーカーのチャンネル数が5chのときに出力されます。
＊2 は、17ページで設定したスピーカーのチャンネル数が3chまたは5chのときに出力されます。

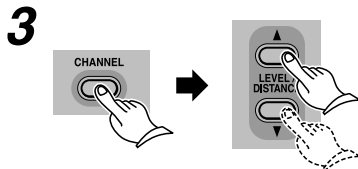
2

音量を調整する

テスト音がよく聞こえる音量にMASTER VOLUME（マスター ボリューム）▲/▼ボタンで調整してください。

- テスト音は何も操作しないでいると、自動的に次のスピーカーに移り、2秒ずつテスト音を出力します。10回くり返して止まります。

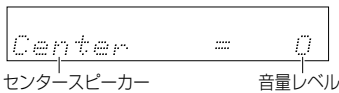
3

➡

CHANNEL（チャンネル）ボタンを押してスピーカーを切り換え、LEVEL/DISTANCE（レベル/ディスタンス）▲/▼ボタンでスピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

Center = 0

センタースピーカー　音量レベル

▲を押すと音量が上がり、▼を押すと下がります。

- −12〜＋12の範囲で設定できます。
- サブウーファーは−30〜＋12の範囲で設定できます。

4

TEST TONEボタンを押す

設定したスピーカーの音量レベルが記憶され、通常の表示に戻ります。

困ったときは

困ったときは、次の内容をご確認ください。

電　源	参照ページ
電源が入らない	
• 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。	
• 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。	
• 本体後面パネルのPOWERスイッチがOFF（オフ）になっていないか確認してください。	P16

音　声	
音声が出ない	
• スピーカーは正しく接続されていますか？しん線は本体の接続端子に接触していますか？	P13
• ボリュームが最小/Minになっていませんか？	P18
• ミューティング機能が働いていませんか？ “MUTING”と表示されている場合、ミューティング機能が働いていますので、解除してください。	P19
• 接続した再生機器側で出力設定を確認してください。	
エラーメッセージが出る	
• 操作中に表示部に表示されるメッセージは以下の内容を意味します。 **Not available：** ドルビーデジタル以外の入力信号のため、Late Nightは設定できません。 **fs 96kHz In：** 96kHzのPCMが入力されているため、STEREO以外のリスニングモードは選べません。 **Muting On：** ミュート機能がONになっているため設定できません。 **DOLBY DIGITAL、DTS、AAC、PCMのインジケーターが点滅している：** デジタル信号が入力されていません。（本機とオーディオ用光デジタルケーブルが外れている、デジタル機器が再生されていないなど）	
センタースピーカーやサテライトスピーカーから音が出ない/サブウーファーから音が出ない	
• リスニングモードがSTEREOになっていませんか？	
• リスニングモードの種類によって音を出さないモードがあります。 **STEREO：** フロントスピーカーとサブウーファーのみから音がでます。 センタースピーカー、サラウンドスピーカーからは音が出ません。 **ORCHESTRA：** センタースピーカーからは音がでません。	
• 再生するソースによっては、ドルビープロロジックIIのリスニングモードは音が出にくい場合があります。 5.1ch対応のDVDソフトやBSデジタルの5.1ch放送は臨場感を表現する信号が含まれていることが多いですが、CDや一般の放送には含まれていないのが一般的ですので、他のリスニングモードをお選びください。	
• パソコンやゲーム機、DVDプレーヤーなどの接続した再生機器側で出力設定を確認してください。	
• スピーカーコードのしん線は本体の接続端子に触れていますか？	P13
音が良くない	
• スピーカーコードの＋/－が正しく接続されているかご確認ください。	P13
• 各スピーカーコードの距離設定、音量設定を行ってください。	P25
• ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。	P14
レコードプレーヤーの音が小さい	
レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵か、お確かめください。 内蔵していないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。	
レコードプレーヤーが再生できない	
MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。	

〈音質について〉
電源プラグの極性を変えると音が良くなることがあります。
電源投入後10～30分程度経過した方が音質は安定します。

リ モ コ ン	参照ページ
リモコンが働かない	
• 電池の極性（＋、－）が、表示通り正しく入っているか確認してください。	P9
• 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。 （種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用はさけてください）	P9
• リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？リモコンと本体の間に障害物がありませんか？	P9
• リモコン受光部に強い光（インバータ蛍光灯や直射日光）が当たっていませんか？	P9

他機器との接続

接続した機器の音が出ない

- 入力切り換えを確認してください。 P18
- 光デジタルケーブルが折れ曲がったり損傷していませんか？
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、別売のフォノイコライザーを中継してください。

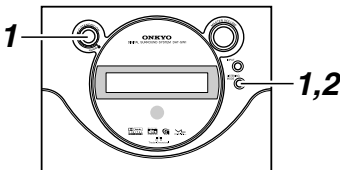
テレビの映像がにじむ

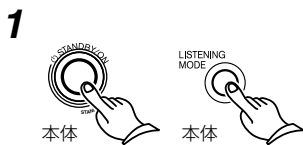
- テレビからスピーカーを離してください。

> • 本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音やノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。
> そのような時は、電源プラグを抜いて約5秒以上待ってから改めて電源プラグを入れてください。

！ヒント **修理を依頼される前に**

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときに、本機のマイコンをリセットすることで、トラブルが解消されることがあります。修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

マイコンのリセットについて

登録したレベル設定などをすべてお買い上げ時の設定に戻したいときは、以下の手順で本機のマイコンをリセットできます。

1

スタンバイ状態時に本体のSTANDBY/ON（スタンバイ／オン）ボタンを押しながら、LISTENING MODE（リスニング モード）ボタンを押す

表示部に「Main（メイン）：」と7桁のコードが表示されます。

2

コードが表示されている間に両方のボタンを離し、次にLISTENING MODEボタンだけを押す

表示部に「Clear（クリア）」と表示され、本機の設定がお買い上げ時の状態に戻ると同時に、スタンバイ状態になります。

主な仕様

アンプ部

定格出力（各チャンネル駆動時）	
フロント、サラウンド部：	15W ×5（1kHz 、6 Ω/JEITA）
サブウーファー部：	25W （100Hz 、3 Ω/JEITA）
周波数特性	
フロント、サラウンド部：	150Hz ～20kHz 、＋1/－3dB（Stereoモード）
サブウーファー部：	20Hz ～150Hz 、＋1/－3dB（Stereoモード）
全高調波歪率：	0.1 %（出力5W ）
SN 比：	100dB （STEREO時、IHF A 0.5V 入力）
ミュート：	－60dB
入力	
デジタル1 、2、3：	光（OPTICAL）
アナログ：	RCA L/R （200mV/50kΩ）

スピーカー部

形式：	J' DRIVE方式16cm OMF ダイヤフラム

一般

電源：	AC100V 、50/60Hz
消費電力：	53W
待機電力：	10W
外形寸法(幅×高さ×奥行き)：	205mm ×330mm ×288mm
質量：	9kg
その他：	防磁設計（JEITA）

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　DHT-SW1
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 年 月 日

ご購入店名：

Tel. ( )

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社 大阪府寝屋川市日新町2-1 〒572-8540

http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル☎0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または☎072(831)8111（携帯電話、PHS、IP電話からはこちら）

G0601-1

SN 29344160